

【高校生の部】審査員賞

『女性と子どもの貧困 社会から孤立した人たちを追った』(樋田 敦子/著)

青森県立弘前南高等学校 3年 小野 美咲

いつだって誰だって貧困に陥る可能性があるということを知ってほしい。私は将来の職業としてカウンセラーに興味をもったときに、この作品に出会った。この作品は、貧困や虐待によって起きた事柄が母親の視点から書かれている。貧困によって命を落とす事例が数多くあり、もっと問題視し、目を向け社会全体で解決していかなければならない課題であると感じた。貧困と聞くとどうしても避けてしまいがちで簡単に解決することは難しい問題ではあるが、一人ひとりが窮地に陥っている人に手をさしのべ、身近な問題としてとらえ行動することで、少しずつ良い方向へ向かっていけるのではないかと思う。是非この作品を読んで貧困について目を向けてほしい。

『傭兵団の料理番』(川井 昂/著)

千葉学園高等学校 1年 榎本 恋翼

この本は、中学校2年生のとき、管理栄養士を目指す私に母がくれたものでした。主人公である東朱里は、実家に帰る新幹線のホームで突然異世界に転移してしまいます。運良く近くに駐屯していた傭兵団に拾ってもらい、料理番になることで、物語は始まります。朱里は、傭兵団員はもちろんのこと、王族の方にも料理を振る舞うことになります。そして、その料理は、和食、洋食、中華など多岐にわたり、食べる人の心を変えていきます。料理を通して、人間関係やそれぞれの葛藤、はたまたこの世界や転移の真相が描かれています。読めば、食べたくなる、作りたくなる、笑いあり涙ありの異世界ストーリー。ぜひ、読んでみてください。

『か「」く「」し「」ご「」と「』(住野 よる/著)

八戸聖ウルスラ学院高等学校 2年 谷川 美佑

相手の本心を知ることができたらどれだけ楽だろう。そう感じることは私は学校生活を通してよくある。またどんなに小さいことでも、誰にも言えないかくしごとがある。きっと誰もが持っていることだろう。

これは、他人の気持ちが記号として見えてしまう自分だけのかくしごとを持った個性あふれる高校生五人の物語。それぞれの悩みや立場などがある。気持ちがわかってしまうことをうまく使ってみたり、壁にぶつかってしまったたりするが一生懸命それぞれが突き進んでいく様子は、私もありのままにいいんだと教えてくれた。嫌われたくない、傷つけたくない、五人の気持ちが痛いほど分かりとても爽やかな一冊なので、ぜひ読んでほしい。